

失敗は成長のもと

主は天を雲で覆い、大地のために雨を備え
山々に草を芽生えさせられる。
獣や、鳥のたぐいが求めて鳴けば
食べ物をお与えになる。

主は馬の勇ましさを喜ばれるのでもなく
人の足の速さを望まれるのでもない。
主が望まれるのは主を畏れる人
主の慈しみを待ち望む人。
詩編147章8～11節(日本聖書協会・新共同訳)

羊の原毛。ふわふわの毛から糸を紡いだ。店の人に教えてもらいながら紡ぎ車を回す。車を回す足を踏み続けながら手元の毛の調節をするのがとても難しい。初めての紡ぎ車に戸惑いながら、その間にもどんどん毛にねじりが入り糸は紡がれていく。
コットン、コットン。コットン、コットン。糸車に巻かれてゆく糸は、細くなったり、太くなったり、よじれたり、切れたり。不恰好だけれど、なんともかわいらしい。

しばらく続けているうちに安定し、リズム良く紡げるようになってきた。「こうしたら糸が切れる」「切れたときはこうやって直して、また始められる」そのコツが分かってくると、大胆に紡ぐことができるようになった。

店の人が「失敗を気にしないで、慣れるまでどんどん紡いでくださいね」と言われたおかげで、糸が途中で切れたりよじれたりしてうまくできなくても気楽に先に進むことができた。もし初めに「こうすると失敗するから気を付けて」「失敗しないように」と言われ

ていたら、緊張してなかなか紡ぐことができなかつただろう。“失敗してもいい”に、勇気づけられた。失敗の仕方が分かると、なんとなく不安が消える。失敗は成長のもとだ。

シュル、シュル。シュル、シュル。「楽しいなあ」いつの間にか糸紡ぎのとりこになっていた。

羊毛からは、スーツを仕立てるための細い糸やセーターを編むための太い糸など様々な太さの糸が作られる。色も、毛の混ぜ合わせや染めによっていろいろ。

私たちの周りにはたくさん物があるけれど、それらの原料や作り立ち、そういう「基本」を知っていれば、そこに自分なりの工夫や遊びを加えてアレンジすることができる。糸紡ぎのようにシンプルな方法であればあるほどその可能性が広がってゆく。

ところで、人間の基本って何だろう。

自分という人間はどういう者かを見つめなおしてみた。“私は命を与えられてこの世に生まれた。大地からの恵みを食して生き長らえている。食べ物ばかりでなく、他にもたくさんの恵みをいただいている。”この基本を忘れないでいたい。高慢になってしまわぬように。

そして、基本から人生をアレンジしてゆく時には、失敗から多くを学んでじっくりと成長できればいいな。

私は機械ではない。速さ、上手さ、正確さで判断されることの少ない世の中で生きていかなければならなくても、先ず、“今日の基本=生きるための恵み”を与えられて存在していることを喜びたい。

私、生きている。神さまの恵みによって。

MO

